

## NOMARTは、いわば「創造の里山」です。

作品を展示・販売するだけでなく、作品を創るための場、創るための技術も提供するのがNOMARTです。  
創る場としての版画工房×見せる場としての現代美術ギャラリーはそんな風に共存しています。

ミュージシャンをブッキングして場を提供するのが通常のライブハウスです。  
NOMARTはアートギャラリーとしての利点を生かし、美術作家と音楽家を繋ぎ、コンセプトを共有しての公演やコラボレーションによるアルバムをリリースしてきました。  
さらに今年より、それらをジョイントするためのプラットフォーム「FACTORY HOUSE」を稼働させ、創造の可能性をより拡げていきたいと考えています。

既存の作品や表現を扱うだけでなく、創るプロセスから担うということは大きなリスクを伴います。  
物理的な時間、エネルギー、経済的リスク、それらをクリアする精神力、体力も必要です。  
幸いにして、NOMARTの活動に賛同し、応援してくれる多くの人の存在によって数々の困難を乗り越え、生み出す場としての土壌が整っていきました。

### NOMARTの姿勢は—

- ・様々な表現領域における「業界」の垣根を越え、繋ぎ合わせる。
- ・様々な表現者の次なる目標を共に見つめ、共に実現する。
- ・様々な共感者と共に、新たな表現を創出する。

私たちがごく当たり前の事としてやってきた事が、実は多くの人たちの「希望」であったことを、出会い、繋がってきた人々の声を通して実感しています。これまで「個」で活動してきた人たちが感じてきた「限界」を越え「可能性」を広げる土壌がNOMARTにあると感じてくれる人々からの「何か一緒にやりたい」というオファーに応え続けたいと思います。  
「Art, Sound and Design」の有機的なサイクル＝スパイラルアップの企業姿勢が、共感の輪を広げています。  
それが「創造の里山」と呼ぶ所以です。



### Staff

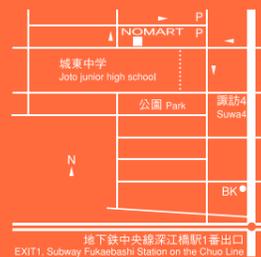
林 聡 (1989-)  
今中 規子 (1994-)  
吉田 亘 (1998-)  
山田 将也 (2005-)  
芝野 健太 (2012-)  
松野 淑子 (2013-)  
三原 圭子 (2014-)

◀ 2011年7月「今村源展 VOID -通路あるいは音として-」開催中のギャラリーノマルにて、ディレクター林聡とオランダ在住(当時)デザイナー綿野茂氏(1937-2012)

株式会社ノマル / Nomart, Inc.  
tel. 06-6964-2323 fax. 06-6967-3042  
e-mail. [info@nomart.co.jp](mailto:info@nomart.co.jp)  
(担当：山田・三原)

〒536-0022 大阪市城東区永田3-5-22  
3-5-22, Nagata, Joto-ku, Osaka, 536-0022 Japan  
[www.nomart.co.jp](http://www.nomart.co.jp)

25周年特設サイト (最新情報はこちらからご確認ください)  
[www.nomart.co.jp/25anv](http://www.nomart.co.jp/25anv)



# 25 anv

## 1989

---

## 2014

# NOMART, INC.

## NOMART 25周年記念イベント

今年、NOMART (株式会社ノマル) は創立25周年を迎えました。  
今夏より年末にかけて、私達のコンテンツである「Art, Sound and Design」を横断し、さらにその領域を広げる“Art, Sound, Design and Many More”な連続5本の周年記念イベントをギャラリーノマルにて開催いたします。

ギャラリーノマルの取扱いアーティストはもとより、アート愛好家、建築家、評論家、ミュージシャン、学芸員、ライター、デザイナー、詩人、小説家、ギャラリーオーナー、音楽サロンオーナー等々、実に多彩な約70名の皆さんの関わりの中、実施されます。

作品展示、実験的なコラボレーション、トーク、音楽ライブ、パフォーマンス、ワークショップ etc、NOMARTならではの周年記念イベント、どうぞご期待ください!!!

[www.nomart.co.jp/25anv](http://www.nomart.co.jp/25anv)



# Art, Sound and Design

アートを愛し、サウンドを愛し、それらを含め全ての計画がデザインだと考えます。

それぞれ別に在るものではなく、すべてを一体と考え、取り組んでいます。

## NOMART HISTORY

“モノづくり”と“コラボレーション”が私たちの原点です。

### ■ 1989年「版画工房ノマルエディション」設立

— Nomart Editions (ノマルエディション)

現代美術作家とのコラボレーションにより、版画作品（主にシルクスクリーン）、作品集を企画・編集・出版する工房として活動をスタートさせました。

<http://www.nomart.co.jp/gallery/kobo>



### ■ 1994年 デザイン・編集セクション設立

— Nomart Graphics (ノマルグラフィック)

創立から5年後、企業、美術館、新聞社等の広報媒体の企画制作を開始。平面ツール、映像、web等の企画制作や販促企画を行っています。アートの現場に在ることから、アートと社会を繋ぐビジュアルコミュニケーションの企画・編集・デザインを得意とします。

<http://www.nomart.co.jp/graphics>



### ■ 1999年 現代美術ギャラリー設立

— Gallery Nomart (ギャラリーノマル)

さらに5年後、敷地内の倉庫スペースをリニューアルしギャラリーを開設。ホワイトキューブのギャラリー空間+モノづくりの場である工房が両方見られる場として国内外から人が訪れる場となりました。

また、外部キュレーターを招いて開催した若手作家育成プログラム「Nomart Projects (ノマル・プロジェクト)」より、現在のアート界を牽引する作家達を輩出してきました。

<http://www.nomart.co.jp/gallery>



### ■ 2009年 音楽セクション始動

創立20周年を機にオフィスとギャラリーを大規模リニューアル。広くなったギャラリー空間をホームグラウンドとするサウンドセクションをスタートさせました。

[コンテンツラリー・ミュージック・ユニット .es (ドットエス) をプロデュース]

橋本孝之 (アルトサクソ等) +sara (ピアノ、パーカッション、ダンス等)、デュオの即興演奏家を中心に、国内外の前衛音楽家、美術作家、ダンサー、デザイナー、評論家達とのコラボレーション・イベントを多数開催。

.es自身も音楽ジャンルを越える活動を展開しています。即興演奏、ノイズ、電子音楽、ジャズ、ロック、クラシックなど国内外のミュージシャン達とのコラボレーションを次々に実現する活動は音楽業界に鮮烈な印象を与え、海外メディアでも紹介される存在となっています。

<http://www.nomart.co.jp/dotes>



### ■ 2014年 実験工房「FACTORY HOUSE」始動

25周年を迎える今年、オリジナル・オーディオシステムの制作・販売及びアート・音楽・デザイン等を連動させた各種のプロジェクトの為にプラットフォーム「FACTORY HOUSE」を立ち上げました。

[FACTORY HOUSE 概要]

- 1.Pure Audio
  - ・オリジナルスピーカー、アンプ、再生機器の制作販売
  - ・演奏家のステージを支えるツール (ケーブル他) の制作販売
- 2.Project
  - ・アート、サウンドそしてデザインに関する様々なプロジェクト企画
  - ・ギャラリーノマルと連携した展示、イベント開催
- 3.Service
  - ・CD・DVD・Blu-ray・カセットテープ・アナログレコードの企画制作・出版
  - ・シルクスクリーン工房とリンクしたパッケージ、ジャケット等の制作
  - ・ライブやコンサートの広報ツール企画制作デザイン
- 4.Stock Yard
  - ・ハイレゾの音楽配信サービス
- 5.Time Machine
  - ・後世に残すべき音源のアーカイブ

<http://www.factoryhouse.jp/>





## 「25の朝」

リズムとか周期というものは面白い。

ノマルは1989年、僕が25歳のとき誕生しました。

ノマルの語源は、遊牧民-NomadeとArtを引っ付けたもので、それをフランス読みしてノマル。

決まった形をとらずに、根っこは張り巡らしても、定住せずにあらゆることにチャレンジしていく、という姿勢を表したものです。

そのノマルが、今年25周年を迎えました。版画工房としてスタートし、デザインセッションの開設、ギャラリーのオープン、音楽活動の開始、そして今年、FACTORY HOUSEという表現全ての活動をつなぐ、コアとしてのプラットフォームを設立—面白いことにいろいろなことが5年ごとに行われてきました。

25年間ずっとおつきあいいただいている作家もいます。若い作家で、今では世界中を飛び回って活躍している作家もいます。これからどんどん活躍していく作家もいます。そして有望な音楽ユニットもいます。ノマルが生み出すものを、ご理解して販売を担っていただいたディストリビューターの方々、支え続けていただいたコレクターの方々、それ以外にも多くの方々の力で今のノマルがあります。創る力はエンドレスでも、続ける力はとてもエネルギーと工夫と、そして多くの人たちの力が必要です。

25年を振り返ります。数々の失敗や、無理もありました。多くの反省とともに思うことは、それでも、どんなことでも実現するのだという信念です。

僕は、美術を愛します。そして音楽を、文学を、そして全ての創造を。その思いから25周年を記念する企画の最初にFavoriteを置きました。これからも愛し続けるであろう僕の人生の全て。今夏で50歳です、大きなうねりが一区切りをつけます。次の周期もかわらず進んでいくことと思います。どうぞ、かわらずお願いいたします。楽しんでいきましょう。

ディレクター 林 聡



## Favorite Books (59名の“Favorite”展)

2014年8月2日[土]—8月30日[土] \*夏期休暇 8/13[水]~17[日]

ゲスト：建畠哲 / .es / 透過性分子 / 冷泉

アート、音楽、デザイン、文学、建築etc. 様々な領域で活躍する方々に「好きな一冊」を選んでいただき、その本をイメージしたブックカバーや自身の創造を加えた“Favorite Book”を制作・出品いただく展覧会。

.....▶ P.5



## Speaking Sculpture 展

2014年9月13日[土]—10月11日[土]

出品作家：今村源 / 中原浩大 / 名和晃平 / 藤本由紀夫

ゲスト：.es / ZBOオーケストラ

第一線で活躍する現代美術作家たちが「音」をテーマに作品を制作。音の鳴る彫刻、音を感じさせる彫刻等、「音」の概念を打ち破る作品を展示。音楽領域のアーティストとのコラボレーションも予定されています。

.....▶ P.6



## FACTORY HOUSE 展

2014年10月18日[土]—10月25日[土]

Collaboration with

池垣タダヒコ / 稲垣元則 / 今村源 / 田中朝子 / 中原浩大 / 名和晃平

ゲスト：能勢伊勢雄 / 山村雅治 / 坂口卓也 / 磯端伸一 / 今西玲子 / Sarry+藤本由紀夫 / .es

foodコーディネーター：中川佳宣

NOMARTの実験工房「FACTORY HOUSE」のお披露目展。アーティストとのコラボレーションによるオリジナル・オーディオ・システムを展示し、1週間の会期中に4回の関連イベントを開催。NOMARTならではの多彩なゲスト陣が音にまつわるレアなお話、試聴会、演奏を展開します。

協力：de sign de >

.....▶ P.7-8



## 能勢伊勢雄 写真展 — ゲーテ形態学から

2014年11月1日[土]—11月26日[水]

能勢伊勢雄氏の写真家としての展覧会。能勢氏はドイツのゲーテ研究者としても知られ、ゲーテの「形態学」を軸にした写真作品を展示発表。

協力：大阪ドイツ文化センター (Goethe-Institut Osaka)

.....▶ P.9



## 能勢伊勢雄 ティンクトゥーラ展 — ゲーテ色彩論から

2014年11月29日[土]—12月13日[土]

ゲスト：sara / 佐谷記世 / 河端一 / Yung Tsubotaj / 橋本孝之

ゲーテの「色彩論」を軸にした展覧会。ゲーテの色彩論を体験すべく、ワークショップ及びコンセプト作品を展示。また、能勢氏の新作版画もノマルの工房で制作・展示予定。

会期中はウォールドローイングの制作工程をご覧いただけます。

協力：大阪ドイツ文化センター (Goethe-Institut Osaka), ターナー色彩株式会社

.....▶ P.10

\*各イベントの日時、料金、詳細等は2014年7月現在の予定です。  
イベントに関しましては変更になる可能性もありますので、詳細は別途お問い合わせください。  
info@nomart.co.jp

\*25周年特設サイトにて、随時、最新情報をアップしていきます。  
http://www.nomart.co.jp/25anv

# Favorite Books (59名の“Favorite”展)

## 2014年8月2日[土]— 8月30日[土]

13:00-19:00 日曜休廊 ＊夏期休暇 8/13[水]～17[日]

アート、音楽、デザイン、文学、建築 etc. 様々な領域で活躍する方々に「好きな一冊」を選んでいただき、その本をイメージしたブックカバーや自身の創造を加えた“Favorite Book”を制作・出品いただく展覧会。

### ■ NOMART 25 anv レセプション：8月2日[土] 18:00- 無料 建畠哲 [詩人] × .es [ドットエス：橋本孝之&sara] パフォーマンス

<p>【出展者 (50音順)】</p> <p>安慶田渉 (彫刻家)</p> <p>池垣タダヒコ (美術家)</p> <p>井戸健治 (建築家)</p> <p>稲垣元則 (美術家)</p> <p>今村源 (美術家)</p> <p>今村遼佑 (美術作家)</p> <p>岩田裕成 (音楽家, 写真家)</p> <p>植松奎二 (彫刻家)</p> <p>植松琢磨 (美術家)</p> <p>榎忠 (年金作家)</p> <p>大島成己 (美術家)</p> <p>おかげんた (芸人, アート愛好家)</p> <p>奥村泰彦 (和歌山県立近代美術館学芸員)</p> <p>尾崎伸行 (ミュージシャンになれないミュージシャン)</p> <p>加藤義夫 (キュレーター, 美術評論家, 大学講師)</p> <p>片山雅史 (画家)</p> <p>木ノ下智恵子 (アートプロデューサー, 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授)</p> <p>木村秀樹 (画家, 版画家)</p> <p>日下部一司 (現代美術作家)</p> <p>黒瀬 剋 (美術家, 空間デザイナー)</p>	<p>児玉太一 (美術家)</p> <p>小吹隆文 (美術ライター)</p> <p>酒井忠康 (世田谷美術館館長)</p> <p>清水穠 (美術評論家)</p> <p>菅谷富夫 (大阪新美術館建設準備室研究主幹)</p> <p>杉崎真之助 (グラフィックデザイナー)</p> <p>高畠彰 (雑用係)</p> <p>建畠哲 (詩人)</p> <p>田中朝子 (美術作家)</p> <p>田中恒子 (アートラバー)</p> <p>堂垣園江 (小説家)</p> <p>トーマス・ノイマン (現代美術作家)</p> <p>豊富春菜 (美術作家)</p> <p>永井英男 (美術家)</p> <p>長尾浩幸 (美術家)</p> <p>中川佳宣 (美術家)</p> <p>中瀬由央 (ROGUES' GALLERY / 美術作家)</p> <p>中原浩大 (美術家)</p> <p>名和晃平 (彫刻家)</p> <p>西村建三 (造形作家)</p> <p>能勢伊勢雄 (シュタイナー派写真家, 美術展企画, 音楽評論家)</p>	<p>橋本孝之 (.es / 音楽家)</p> <p>浜地靖彦 (ROGUES' GALLERY / 美術作家)</p> <p>林聡 (+東影智裕 +sara) (ギャラリーノマル)</p> <p>原久子 (アートプロデューサー, 大阪電気通信大学総合情報学部教授)</p> <p>藤本由紀夫 (アーティスト)</p> <p>舟田潤子 (銅版画家)</p> <p>保山宗明玉 (ニセ芸術家)</p> <p>松井智恵 (美術家)</p> <p>森下明彦 (美術・音楽・パノラマ愛好家)</p> <p>山口孝 (ギャラリー主宰者)</p> <p>吉村萬壺 (小説家)</p> <p>冷泉淳 (音楽家)</p> <p>和田大象 (料理人)</p> <p>渡辺信子 (美術家)</p> <p>Fujiyuki (音楽家 / Sarry)</p> <p>PIKA☆ (ミュージシャン)</p> <p>.qmac (マタケマキコ / キュレーター+F.Monk / デザイナー)</p> <p>821 (音楽家 / Sarry)</p>
---	---	--

8/2 [土] NOMART 25 anv レセプションにて、**建畠哲** (詩人) によるリーディング&コンテンポラリー・ミュージック・ユニット.esの即興演奏という異色のパフォーマンスを開催します。

<p>【建畠哲 (たてはた あきら)】</p> <p>1947年京都生まれ。詩人、美術評論家。1972年に早稲田大学文学部卒業後、国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授、国立国際美術館館長を経て、2011年より京都市立芸術大学学長、埼玉県立近代美術館館長。1990年、1993年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッション、横浜トリエンナーレ2001、あいちトリエンナーレ2010のアーティストイック・ディレクターなどを務める。専門は近現代美術。詩人としても活躍し、1991年に歷程新鋭賞、2001年に高見順賞を受賞。2013年には詩集「死語のレッスン」(思潮社)で第21回萩原朔太郎賞受賞。</p>	<p>【.es (ドットエス：橋本孝之&amp;sara)】</p> <p>2009年大阪の現代美術画廊「ギャラリーノマル」をホームに結成。橋本孝之 (アルトサクス) +sara (ピアノ、カホン他)、二人の即興演奏家によるユニット。現代美術ディレクター林聡がプロデュース。2013年3rdアルバム「void」をPSF Recordsよりリリース、英音楽誌WIREにてレビュー紹介/コンピアルバム音源提供、静岡市美術館での美術作家・今村源とのコラボレーション公演招聘。2014年ノイズミュージシャン美川俊治との共演アルバム「September 2012」を香港のレーベルRe-recordsよりリリース。結成当初より美術作家、前衛音楽家、ダンサー、映像作家、デザイナー、評論家等、他ジャンルとのコラボレーションへ参画。音楽領域においても、即興、ノイズ、電子音楽、ジャズ、ロック、クラシックなど国内外のミュージシャン達とのコラボレーションを次々に実現する活動は音楽業界に鮮烈な印象を与え、海外メディアでも注目される存在となっている。・美術作家とのコラボ作品ーオトデイロツククル (中原浩大)、Resonance / Sound Drops (藤本由紀夫)、void (今村源)、Three Phase (稲垣元則、名和晃平)、darkness (稲垣元則) 等。http://www.nomart.co.jp/dotes</p>
--	---

#### 【関連イベント】

#### 8月17日 [日]

## Live “Favorite Songs”

**出演：透過性分子 / 冷泉 / .es (ドットエス)**

14:30 open / 15:00 start 料金 ¥2,000.-

▶ **要予約 (8/10迄・定員30名) 予約先：info@nomart.co.jp**

\*8/17は夏期休廊中ですが、ライブ時のみOpenといたします。

from東京、国内外のアヴァンギャルド音楽シーンで注目を集める透過性分子と冷泉の二人を迎え、.es (ドットエス) との初共演ライブを開催。“Favorite Songs”という共通テーマを三者がどう昇華するかが見もの。

<p>【<b>透過性分子 (とうかせいぶんし)】</b></p> <p>2009年 PSF Recordsより、「Meta-newlon meta-in organic matter」をリリース。2014年、Art into Lifeより、新作を発表予定。宇宙音響と体内音響が響き合う新しい倍音の地平を探索し続けている。</p>	<p>【<b>冷泉 (れいぜん)】</b></p> <p>ドローンやノイズ、ミニマルを手法とした演奏、作品制作を行う。2011年、LAFMSのRICK POTTSが来日、大阪のFUKUGAN GALLERYにてRICK POTTS個展のオープニングアクトと共演を務める。2013年、フィンランドとスウェーデンのミュージック・クラブCLUB NIUBIより招致を受け、ストックホルム (FYLKINGEN 等) にて演奏する。四谷三丁目喫茶茶会記にて、定期演奏会「音ほぐし」を主催している。主な作品：Nocturnal Abstracts (Neurec 2011) / Untitled (self-released 2011) / Untitled (PSF Records 2012) / Untitled (Fylkingen Records 2013) http://reizen.jp</p>
--	---

# Speaking Sculpture 展

## 2014年9月13日[土]— 10月11日[土]

13:00-19:00 日曜・祝日休廊

出品作家：

**今村源** Hajime Imamura / **中原浩大** Kodai Nakahara / **名和晃平** Kohei Nawa

**藤本由紀夫** Yukio Fujimoto

第一線で活躍する現代美術作家たちが「音」をテーマに作品を制作。音の鳴る彫刻、音を感じさせる彫刻等、「音」の概念を打ち破る作品を展示。音楽領域のアーティストとのコラボレーションも予定されています。

### ■ オープニングパーティー：9月13日[土] 18:00- 無料 .es [ドットエス：橋本孝之&sara] ライブ “Speaking - おしゃべり”

### ■ クロージングイベント：10月11日[土] 18:00- 料金 ¥2,000.- ZBO meets Speaking Sculpture ▶要予約 (9/15迄) 予約先：info@nomart.co.jp

- レクチャー：藤本由紀夫 (音と美術の関わり、ZBOオーケストラの展開)
- コンサート：ZBOオーケストラ+.es (ドットエス)

<p>Speaking Sculpture 展によせて</p> <p>最近オーディオスピーカーの開発をしています。眼は見たいものを選択できるが、耳は出来ないと言いますが、うそです。耳は聞きたい、聞くべき音を、まさぐり到達します。埋もれている音、ほんのかすかなささやきが、実在感を持ってきらきらと輝きます。</p> <p>スピーカーの箱を胡桃の樹で削りました。樹に触れることでみせてくれる表情があります。冷たい肌、あったかい肌。しっとりした肌、かりっとした肌。樹に限らず様々な素材には、様々な表情が在ります。</p> <p>最近、滑車神経麻痺というものを患いました。片目ずつなら見えるのですが、両目だと焦点が合いません。両目で見るとなんだかわからない世界だし、片目だと遠近感 (立体感) がなくなる。疲れるので両目を閉じます。両目を閉じてても在る視覚的体験というものを知りました。すべての感覚は心の中に在ります。</p> <p>Speaking Sculpture 全ての感覚は相対的に関連しあい相互交通している。Speakingとは発音装置やオーディオ装置を意味しません。Sculptureとは存在です。感覚と認識の往来する世界の入り口に音を、そこから始まる作品展です。</p>	<p>ディレクター 林 聡</p>
---	-------------------

#### 【ZBO オーケストラとは?】

藤本由紀夫+.es+ギャラリーノマルのコラボにより2013年10月に発足したプロジェクト「ZBO (Zing Buckets Orchestra)」。亜鉛メッキのOBAKETSU (バケツ) に藤本選曲のオルゴールを組み合わせた音の鳴るアート作品ZBOの所有者は「ZBOオーケストラ団員」となり半永久的に活動が続けていくというプロジェクト。現在団員は30名近く、テーマは「MoMAへ演奏に!」。http://www.nomart.co.jp/zbo



今村源



中原浩大



名和晃平



藤本由紀夫

# FACTORY HOUSE 展

2014年10月18日[土]—10月25日[土]

13:00-19:00 日曜休廊

Collaboration with

池垣タダヒコ Tadahiko Ikegaki / 稲垣元則 Motonori Inagaki

今村源 Hajime Imamura / 田中朝子 Asako Tanaka / 中原浩大 Kodai Nakahara

名和晃平 Kohei Nawa

NOMARTの実験工房「FACTORY HOUSE」のお披露目展。アーティストとのコラボレーションによるオリジナル・オーディオ・システムを展示し、1週間の会期中に4回の関連イベントを開催。NOMARTならではの多彩なゲスト陣が音にまつわるレアなお話、試聴会、演奏を展開します。

※ご試聴をご希望の方は事前にご予約ください。

協力：design museum **de sign de** >

## 2014年秋、細胞分裂開始

NOMARTが工房と展示スペースであるならFACTORY HOUSEはサロンです。

NOMARTから徒歩10分、表現者たちが集い、何かが生まれ、実現していく為のゾーンです。

簡単なベットとキッチン、そして音楽と映像を楽しめるリビング、最小限のものがコンパクトに揃っています。

細胞分裂の開始する地点、それがFACTORY HOUSEです。

ディレクター 林 聡

## 「イベント」

### 10月18日[土・初日]

能勢伊勢雄によるトークとFACTORY HOUSE SOUND SYSTEMによる試聴会

## 「新・音楽の解説」

16:00-20:00頃迄 料金 ¥1,500.-

▶要予約(9/30迄・定員25名) 予約先：info@nomart.co.jp

\*長時間となるため出入り自由、バー形式(有料)のフリーな空間演出予定。

【能勢伊勢雄(のせいせお)】写真家・美術展企画・音楽評論家

岡山を拠点に表現ジャンルをクロスオーバーする活動を展開。

写真家、前衛映像作家、ドキュメンタリー映画監督、音楽・美術評論家、書籍編集、

音楽CDプロデュース、現代美術企画等。

さまざまな表現の交差する場として1974年に老舗Live House「PEPPERLAND」を設立。

・PEPPERLAND <http://www.pepperland.net/>

### 10月21日[火]

山村雅治によるトークとFACTORY HOUSE SOUND SYSTEMによる試聴会

## 「20世紀このかたの西洋と日本の音楽通覧」

19:00- 料金 ¥2,000.- with トークをイメージしたfood

foodコーディネート：中川佳宣(美術家)

▶要予約(9/30迄・定員25名) 予約先：info@nomart.co.jp

\*ご予約ない場合、当日はご入場いただけませんのであらかじめご了承ください。

【山村雅治(やまむら まさはる)】山村サロン主宰・詩人・作家・俳優・モデル

1952年兵庫県芦屋市に生れる。県立神戸高校を経て、法政大学文学部英文学科卒業。

1986年芦屋市内で、多目的小ホールの山村サロン経営にあたる。

独自の視点に支えられた自主催事は国際的に拡がりを持つものであり、

音楽会や文学を語る自主講座シリーズなどには通いつめるファンも多い。

・山村サロン <http://www.y-salon.com/>



池垣タダヒコ



稲垣元則



今村源



田中朝子



中原浩大



名和晃平



能勢伊勢雄 ©二期リゾート



山村雅治



坂口卓也

### 10月23日[木]

坂口卓也によるトークとFACTORY HOUSE SOUND SYSTEMによる試聴会

## 「雑音と反復の魅力を妄想する夜話」

19:00- 料金 ¥2,000.- with トークをイメージしたfood

foodコーディネート：中川佳宣(美術家)

▶要予約(9/30迄・定員25名) 予約先：info@nomart.co.jp

\*ご予約ない場合、当日はご入場いただけませんのであらかじめご了承ください。

【坂口卓也(さかぐち たくや)】音楽解説者

「35年超にわたり変わった音楽について記しそして催しを行って来ました。

音楽が存在することには深く感謝していますが何でもは聴きたく無い偏食的音楽愛好者とも言えます。

”Heaven”あるいは”G-Modern”などに寄稿すると共に現在ではブログ「音楽談」に文章を記しています。

実験音楽誌「Onzine - 音人」には45頁にわたるロサンゼルス・フリー・ミュージック・ソサエティ(LAFMS)の記事を執筆しました。

”Slow Life Avant-garde(日常的前衛)”を標榜しながらささやかに活動しています。

・ライナー・ノーツを担当したアルバムの演奏者(抜粋/アイエオ順)  
アウシュヴィッツ/石上和也/イデオット・オクログ/インキャバシタツ/LAFMS/オウブ/ゴミカワフミオ/頭土奈生樹/スメグマ(LAFMS)/ソルマニア/高山謙一/

ジョン・ダンカン(LAFMS)/ディーゼル・ギター/ザ・テンセス(LAFMS)/.es(ドットエス)/浩にて/橋本孝之/ジョセフ・ハマー(LAFMS)/ブトーズ(PPP)/

ブラウルズ(LAFMS)/ペイン・ジャーク/モンド・ブリュイッツ/凜泉/トム・レッシオン(LAFMS)/ザ・ロドニー・フォレスト(LAFMS)

ブログ「音楽談」<http://onyak.at.webyr.info/>

### 10月25日[土]

FACTORY HOUSE SOUND SYSTEMと音楽家の共演

## 「Pre-Composed Improvisation」

出演：磯端伸一+今西玲子/Sarry+藤本由紀夫/.es(ドットエス)

18:00- 料金 ¥2,000.-

▶要予約(10/15迄・定員30名) 予約先：info@nomart.co.jp

NOMARTの新セクション「FACTORY HOUSE」と前衛ミュージシャン達とのコラボレーション。事前に創られた音をFACTORY HOUSE SOUND SYSTEMで再生、それと共にミュージシャン達は即興演奏を繰り広げる。

①磯端伸一+今西玲子：Abyss in time(時の深淵)(オリジナル音源とスコアを用いたインプロヴィゼーション)

②Sarry：dual motion(現代美術作家・藤本由紀夫が制作する音源との共演)

③.es(ドットエス)：Loopline OSAKA(大阪環状線一周分のフィールド・レコーディング音源との共演)

【磯端伸一(いそはた しんいち)】

1962年大阪府出身。12歳の頃よりギターを弾き始める。同時期にジャズのハーモニーやアドリヴに魅かれて、ギターの技術とベーシックな音楽理論を独学で習得。1982年から'85年まで東京でティム・ドナヒューにフレットレス・ギターとジャズ理論を学ぶ。1985年から高柳昌行氏に師事、高柳氏の私塾にて氏の亡くなる1991年まで楽器の基礎技術を矯正習得し、高柳氏の音楽美学と哲学を学ぶ。1994年より兵庫県在住。

感覚イメージと独自の理論から構成されるギター・ミュージックは、デリケートで静謐な響き、透明な音色、日本的な「間・余白」などに動しむ。1996年から始めた主に他分野のアーティストとのコラボレーションでもあるライブワーク、series "EXISTENCE"は美的共有を目指し継続されている。

<http://d.hatena.ne.jp/abst-si/>

<https://soundcloud.com/shinichi-isohata>

【今西玲子(いまにし れいこ)】

4歳より箏とピアノを始め、ロンドン留学中に箏とエレクトロニクスを用いたパフォーマンスを始める。英国のクリエイティブ集団TOMATOのアルバム(Beat Records)等に参加後帰国。「snoweffect 茶寮 YMO」として桑原茂一氏のCLUBKINGや電子音楽レーベル涼音堂茶舗のイベントに出演、楽曲提供する。

自身のライブ企画「Sound Quest」では現代ならではの出会いにより箏の様々な音色を引き出す試みを続けており、あらゆる楽器、ダンサー、美術家、海外ミュージシャンとの共演、映像作品やアルバムへの参加も多数。

サウンドアーティストHacoとの「aqua jade」、テルミン奏者児嶋佐織との「短冊」、磯端伸一、古館健、SUGAI KEN、クボタテツとのデュオ等でも活動。

近年、Sonar Sound Tokyo、音泉温泉、Jazz Art せんがわ、水都大阪、Camp Off-Tone 等大型フェスからバリコレ、豪華客船、伊勢神宮はじめ寺社での御奉納まで、フィールドはますます広がりをみせ、伝統の上に立つ革新性としなやかな音楽的センスが目目される。

<http://soundquest.exblog.jp/>

【Sarry(サリー：821&Fujiyuki)】

2005年より大阪を中心にライブ活動を行うFujiyuki(Vo)と821(ハニィ/Ba)の二人組ユニット。

結成時より貫して「この世とあの世を繋ぐ音の追求」をコンセプトとし、ディレイペダル、ループペダル等を駆使し、ドローン/アンビエント/ミニマルを軸とし繊密に構築された楽曲を即興を交えた演奏により、人間が根源的に持ち合わせる太古の記憶を日常に呼び覚ます感覚的な音楽を模索している。

2008年12月と2009年7月にインディーズの老舗レーベルGYUUNE CASSETTEよりアルバムを連続リリース。

2011年以降、海外での4枚のアルバムをリリース。オーストラリア、ヨーロッパにてライブツアーを行い、国内外問わず知名度を上げている。

Fujiyukiは電子ドローンを用いたソロプロジェクトや即興演奏への参加、821はソロでのドローンやノイズの演奏、サイケデリックロックバンド秘部痺れにベーシストとして参加する他、ベーシスト、ギタリストとして多ジャンルのバンドへのゲスト/サポート参加など共にSarry以外でも精力的にライブ活動を行っている。

<http://sarry.info/>

【.es(ドットエス：橋本孝之&sara)】

2009年大阪の現代美術画廊「ギャラリーノマル」をホームに結成。橋本孝之(アルトサクソ)＋sara(ピアノ、カホン他)、二人の即興演奏家によるユニット。現代美術ディレクター林聡がプロデュース。

2013年3rdアルバム「void」をPSF Recordsよりリリース、英音楽誌WIREにてレビュー紹介/コンピアルバム音源提供、静岡市美術館での美術作家・今村源とのコラボレーション公演招聘。

2014年ノイズミュージシャン美川俊治との共演アルバム「September 2012」を香港のレーベルRe-recordsよりリリース。

結成当初より美術作家、前衛音楽家、ダンサー、映像作家、デザイナー、評論家等、他ジャンルとのコラボレーションへ参画。

音楽領域においても、即興、ノイズ、電子音楽、ジャズ、ロック、クラシックなど国内外のミュージシャン達とのコラボレーションを次々に実現する活動は音楽業界に鮮烈な印象を与え、海外メディアでも注目される存在となっている。

・美術作家とのコラボ作品-オトディオラツクル(中原浩大)、Resonance / Sound Drops(藤本由紀夫)、void(今村源)、Three Phase(稲垣元則、名和晃平)、darkness(稲垣元則)等。

<http://www.nomart.co.jp/dotes>



磯端伸一



今西玲子



Sarry(821&Fujiyuki)



.es(橋本孝之&sara)

## 能勢伊勢雄 写真展 — ゲーテ形態学から

2014年11月1日[土]—11月26日[水]

13:00-19:00 日曜・祝日休廊

能勢伊勢雄氏の写真家としての展覧会。能勢氏はドイツのゲーテ研究者としても知られ、ゲーテの「形態学」を軸にした写真作品を展示発表。

■ オープニングパーティー：11月1日[土] 18:00- 無料  
アーティストトーク：能勢伊勢雄

協力：大阪ドイツ文化センター (Goethe-Institut Osaka)



Galleryノマルでの展覧会は、近代と前近代が交差した時代に生きたゲーテの全人的認識をもって、「写真機」という近代的な道具を用いて作品を創りだすことを試みたものである。それは、近代(科学)の成果を否定すること無く、モダニズム(近代化)の超克を可能にする有効な方法であった。

能勢伊勢雄



MORPHOLOGY #2 (水面)



MORPHOLOGY #2 (水面)



MORPHOLOGY #3 (植物)



MORPHOLOGY #3 (植物)



MORPHOLOGY #3 (植物)

### 【MORPHOLOGY #2】

生活雑排水が流れる下水路の底に形成される有機物の形態を撮影した作品である。水の温度(熱エーテル)と水流(水エーテル)が有機物に作用して形作る非平衡なフローフォームが、新しい構造体を自発的に産みだしている。この作品はゲーテ自然学のMORPHOLOGYと呼ばれる形態学の視点や、万物の形態形成をおこなうエーテル空間の神秘の一端を表現している。

### 【MORPHOLOGY #3】

ストレート・フォトグラフィーによって植物の形態が生み出す「形態」を撮影したものである。植物の姿をシュタイナー派の射影幾何学者 R. エドワーズや M. グレッケラーの認識と結びつけて撮影し、多種の植物が星辰の形成力を受けながら成長し、そして死滅する姿を遠観的エーテル写像として写真に定着したものである。これらの作品がもたらすものは地上に現れた「宇宙図」に他ならない。

### 【能勢伊勢雄 (のせ いせお)】

1947年生まれ。山崎治雄氏に師事した写真家。活動の核となるLive House PEPPERLANDを1974年にオープンした。松岡正剛氏が編集したオブジェクト・マガジン「遊」に70年代から参画し執筆などを行う。また、阿木順編集の「ロック・マガジン」の編集やライターを務めた。そのほか、美術展企画としては「龍の國・尾道・その象徴と造形」(尾道市立美術館開館20周年記念展)の監修や水戸芸術館で開催された「X-COLOR グラフィティ in Japan」展等の美術展企画を行うと共に、写真家、コンセプチュアル・アーティストとして作家活動でも注目されている。講座では、アートフェスタ那須「山のシュレ」の講師を2009年から現在まで続け、九州大学大学院「リベラルアーツ講座」などの活動を精力的に行う。また写真関係ではPhotographers' Gallery企画として「能勢伊勢雄写真展【PORTOGRAPH】」展、奈良町現代美術館にて「能勢伊勢雄写真展」が開催された。映画の分野では1994年、水戸芸術館で開催された「ジョン・ケージ展」にて、8作品が上映され、1995年、山形国際ドキュメンタリー映画祭の「日本ドキュメンタリー映画の格闘・70年代」部門に「共同性の地平を求めて」が展出上映された。このような多岐に渡る活動の全貌を紹介する展覧会「スペクトル能勢伊勢雄 1968-2004」が岡山・倉敷市連携文化事業として開催された。音楽、文学、哲学、あらゆる分野の融合のなから「山のシュレ」にて2010年から3年間「ゲーテ色彩論・形態学」を講義する。



©二期リゾート

【主著・共著】「スペクトル能勢伊勢雄 1968-2004」(和光出版刊)。『サイバーレボリューション』(第三書館刊)。『E』(ノイブダクト出版刊)。『ジ・オウム・サブカルチャーとオウム真理教』(太田出版刊)。『ユリイカ』(青土社刊) 2000.5月号：「シュタイナーの根幹理念としてのゲーテ形態学」執筆。『観想の空間』(尾道市美刊)。『龍の國尾道』(尾道市美刊)。『X-COLOR GRAFFITI IN JAPAN』(水戸芸・FOIL刊)。『photographers' gallery press no.5』(pg刊) 執筆。DVD『INSIDE OUTSIDE』(UPLINK刊) インナーノーツ。『写真家 山崎治雄の写した岡山 1938-1960』(財団法人：福武教育文化振興財団刊)。『ユリイカ』(青土社刊) 2011.8月号に執筆。CD book『ASCENSION SPECTACLE』(JINMO)や高橋麗CD『HARMONIA』を企画制作・執筆。自著『新・音楽の解説』DUBOOKS刊行 等多数

## 能勢伊勢雄 ティンクトゥーラ展 — ゲーテ色彩論から

2014年11月29日[土]—12月13日[土]

13:00-19:00 日曜休廊

ゲーテの「色彩論」を軸にした展覧会。ゲーテの色彩論を体験すべく、ワークショップ及びコンセプト作品を展示。また、能勢氏の新作版画もノマルの工房で制作・展示予定。会期中はウォールドローイングの制作工程をご覧いただけます。

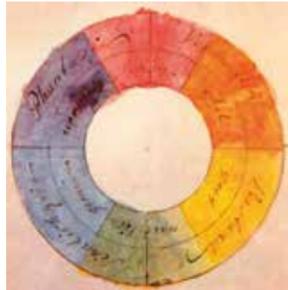
■ ワークショップ：11月29日[土] 15:00- 料金 ¥2,000.- (材料費込)

▶ 要予約 (10/31迄・定員20名) 予約先：info@nomart.co.jp

ゲーテ色彩論の基礎を、現代美術作家・中原浩大の新作ドローイングの模写を通して体験していただけます。作品は展覧会会期中、壁面に展示します。

■ オープニングパーティー：11月29日[土] 19:00- 無料

協力：大阪ドイツ文化センター (Goethe-Institut Osaka)  
ターナー色彩株式会社



参考図版：ゲーテ色彩環

### 【関連イベント】

### 12月6日[土]

## 公開レコーディング Tinctura

16:30 open 17:00 start (17:00を過ぎるとご入場いただけません) 料金 ¥2,000.-

▶ 要予約 (11/15迄・定員30名) 予約先：info@nomart.co.jp

.es (ドットエス) のsara (ピアノ) と4名のゲストミュージシャンによる公開録音。「ティンクトゥーラ」をテーマに、内なる色(音)を描く。音源はアルバム「Tinctura (ティンクトゥーラ)」としてリリース予定。

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| 第1章：sara+佐谷記世 Cello                       | 第4章：sara+橋本孝之 (.es) Alto Sax |
| 第2章：sara+河端一 (Acid Mothers Temple) Guitar | 第5章：sara Solo Piano          |
| 第3章：sara+Yung Tsubotaj (EP-4) Perc.       |                              |

### 【sara】

5歳よりピアノを始める。15年以上クラシックピアノを学びつつ、中学時代よりギター、キーボードにてロック、ブラックコンテンポラリー、エンターテインメント系のバンド活動を行う。90年代初頭よりバンド活動停止、その後フラメンコの踊りを始め現在も続けている。2009年よりギャラリーノマルをホームとした.es (ドットエス) にて即興演奏(ピアノ、カホン等)を開始。触れてきた全音楽、フラメンコの精神性、現代アートとの接点、全てを生かせる究極のスタイルが即興であることに開眼し現在に至る。ピアノの新境地を拓く試みとなるアルバム「Tinctura (ティンクトゥーラ)」制作に意欲を燃やす。  
http://www.nomart.co.jp/dotes

### 【佐谷記世 (さたに きよ)】

3歳よりチェロをはじめ。美術、芸術全般に興味をもち、美学・芸術学を大阪大学文学部、のちに大学院文学研究科で学ぶ。博士後期課程単位取得退学(芸術学修士)。大学院在学中よりザ・フェニックスホールにて勤務、演奏会の企画・運営に携わる。現在フリーで演奏会企画、チェロの指導に携わる。チェロを日比野忠孝、野村武二、杉山實、藤森亮一の各氏に師事。近年は古楽器ヴィオラ・ダ・ガンバを頼田麗氏に師事。ノマルとピアノのsaraとの親交は23年前にさかのぼる。

### 【河端一 (かわばた まこと)】

90年代末より国内外で活動を展開しているサイケデリックロックバンド「Acid Mothers Temple」のリーダー。国内はもちろん欧米、アジア圏で数多くの海外ツアーを行い、欧米ではカリスマ的人気を誇るギタリスト。GONG、GURUGURUなどのレジェンドとの合体も果たす。超絶ロックギタリストとしての姿以外にもギタードローン、エレクトロニクスをはじめとするソロワークでは独自の静謐な世界観を持つ。  
http://acidmothers.com/

### 【Yung Tsubotaj (ユン・ツボタジ)】

1960年、京都生まれのパーカッショニスト。'82年に「EP-4」に加入。その活動と並行して'84年にリーダーGroup "Unit4"を結成。'01年に活動を停止するまでの17年の間に多くのプレイヤーを起用し、実験的な音楽アプローチを展開。ソロ活動に移行した現在も、Unit4のコンセプトそのままに、プレイヤーとして様々なミュージシャンや役者、ペインターやDJと共演を続けている。近年は、ししおどしにヒントを得て、竹筒を楽器と称して打楽器群に加え、独自の世界を構築している。また、打楽器以外に、直接的な日本語で「喋る」という独特のパフォーマンスによりメッセージを発信し続けている。  
http://www.on-air-music.com/artistdetail.php?i=00156

### 【橋本孝之 (はしもと たかゆき)】

サクソプレイヤー。2009年、即興演奏ユニット「.es」(ドットエス)で演奏活動を開始。2013年、アルバム「void」をPSF Recordsよりリリース、海外でも高い評価を獲得する。2013年にはNomart Editionsよりソロアルバム「COLOURFUL - ALTO SAXOPHONE IMPROVISATION」を発表。新しいフリー・インプロヴァイズ・ミュージックを、21世紀の美しい音楽として日本から世界に提示すべく演奏活動を行う。



sara



佐谷記世



河端一



Yung Tsubotaj



橋本孝之